

安全計画

1. 目的と目標

- ・目的: 子どもたちの安心・安全な環境を提供すること。

目標

- ・施設内外での事故や怪我を防止する。
- ・緊急時に迅速かつ適切に対応できる体制を整える。

保護者、スタッフ、関係者との情報共有を徹底し、安全文化を促進する。

2. リスクアセスメント（リスク評価）

- ・施設内リスク:
 - ・階段や遊具での転倒や事故
 - ・設備や備品の不具合（例えば、破損したおもちゃや家具）
 - ・食事やアレルギー対応の不備
 - ・火災や地震などの自然災害
- ・施設外リスク
 - ・送迎中の交通事故
 - ・外遊び時の事故（公園や外出先での転倒、衝突など）
 - ・不審者による接触
- ・スタッフ・子ども間のリスク
 - ・スタッフの対応不足による誤解や事故
 - ・集団行動中のトラブル（ケンカや暴力行為など）

3. 安全対策と予防策

- ・施設内対策
- ・設備の点検
定期的な施設や遊具、家具の点検を実施し、破損や危険な箇所を修理・交換。
- ・適切な環境整備: 通路を清潔に保ち、障害物を取り除く。
- ・遊具・おもちゃの安全確認: 子どもが使うおもちゃや遊具は定期的に点検し、年齢に適したものを選定。
- ・安全な食事管理: 子どものアレルギーや食事制限に配慮したメニューを提供し、誤食を防ぐ。
- ・消火設備の設置: 消火器や防火扉などを設置し、火災発生時の避難計画を周知。
- ・送迎中の安全対策
 - ・運転手の安全教育: 送迎ドライバーへの安全運転教育と定期的な車両点検を実施。
 - ・車内の安全管理: 子どもを適切に座席に固定し、安全ベルトを使用。
 - ・送迎中の監視: 複数のスタッフが送迎中に子どもたちの安全を確認。
- ・外出時・遊び場での対策

- ・外遊び時の監視体制: 子ども 1 人につき、最低 1 人以上のスタッフが監視。
- ・不審者対応
 - ・不審者が近づいた場合の対応方法をスタッフに教育し、保護者に連絡する手順を明確化。
 - ・施設外での緊急連絡手段: 外遊び時に必要な緊急連絡先をスタッフ間で共有。
- ・スタッフ教育と訓練
 - ・定期的な安全研修
子どもたちの特性やニーズに応じた安全管理の研修（例えば、障害に伴うリスクの理解）。
 - ・応急処置・救急対応の訓練: 定期的にスタッフに心肺蘇生法（CPR）や応急処置を教える。
 - ・危機管理訓練: 火災や地震、その他緊急事態に備えた避難訓練や対応訓練。

4. 緊急対応計画

- ・緊急時の連絡体制
 - ・緊急時にすぐに連絡すべき保護者、医療機関、警察、消防などの連絡先リストを作成し、スタッフ全員が共有。
 - ・緊急時の責任者を明確にし、指示系統を定める。
- ・避難計画
 - ・火災や地震発生時の避難ルートと集合場所を確認。
 - ・子どもたちの避難誘導方法、人数確認の手順を定める。
- ・応急処置
 - ・怪我や体調不良時の迅速な応急処置を実施。
 - ・救急車を呼ぶべきケースとその対応方法をスタッフに教育。

5. 役割と責任

- ・スタッフの役割分担
 - ・各スタッフがどの業務を担当するか（送迎、遊びの監視、食事管理、緊急対応など）を明確化。
 - ・緊急時には、各スタッフが迅速に行動できるように役割を事前に周知しておく。
- ・保護者との連携
 - ・定期的な保護者面談を行い、子どもの状況や必要な安全対策について情報共有。
 - ・保護者からの連絡方法（例えば、欠席時や体調不良時の連絡方法）の確認。

6. 安全監査と評価

- ・定期的な安全チェック

- ・施設や設備の点検を定期的実施し、安全基準を満たしているかを確認。
- ・送迎車両の点検や、遊具、玩具の安全確認を行う。
- ・改善活動
 - ・事故やヒヤリハットが発生した場合、その原因を分析し、再発防止策を実施。
 - ・スタッフからのフィードバックを基に、日々の運営方法を改善する。

7. コミュニケーションと情報共有

- ・安全情報の周知
 - ・スタッフ全員に対して安全に関する情報やマニュアルを共有し、定期的にレビューを行う。
 - ・保護者に対して、施設での安全対策や緊急時の対応方法について定期的に通知。
- ・フィードバック機会の提供
 - ・スタッフや保護者からの意見や提案を受け入れる場を設け、安全対策の改善に役立てる。

8. 法的遵守

- ・関連法令の遵守
 - ・放課後等デイサービスに関する法令（児童福祉法や障害者総合支援法など）を遵守し、安全基準を満たす。
- ・更新と見直し
 - ・法令改正や新たな安全基準に対応するため、安全計画を定期的に見直し、更新する。